

埼玉県上里町/防災情報の伝達手段多重化対策

事例概要

インターネットやメールの利用が難しい高齢者の方など、広報塔以外では情報を取得できない方へ防災情報を伝達することを目的に、「どの家にもあり、高齢者も使い慣れた固定電話等」を使って、防災行政無線の放送と同じ音声情報を届ける技術・サービスを導入。

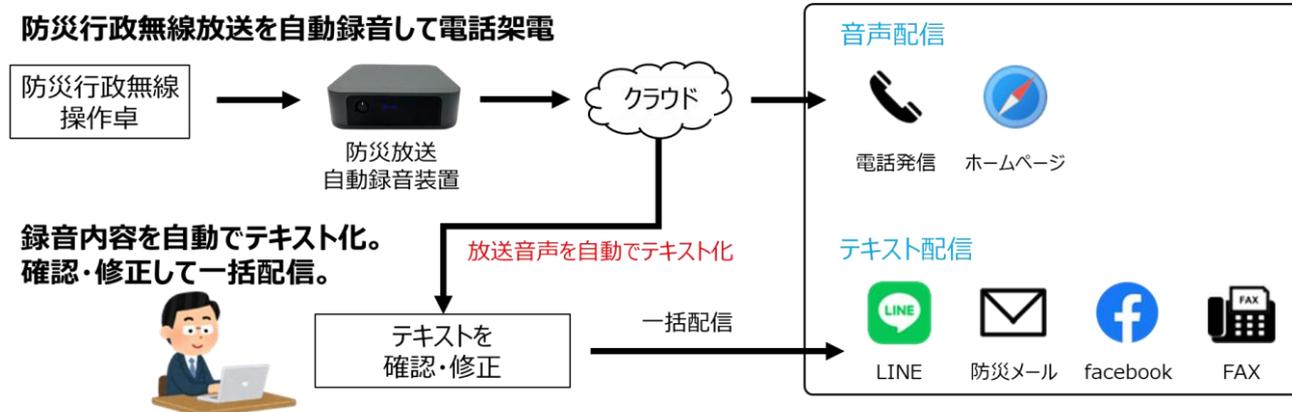
導入前

- 防災行政無線デジタル化改修による音達範囲の向上を見込み、広報塔の集約化(59局→36局)を図ったが、一方で広報塔集約化による「無線放送が聞こえない」地域が増加した。
- 町が発令する避難情報等の放送を、インターネットやメールの利用が難しい高齢者の方などに、屋内でも確実に享受することができる仕組みを構築したい。

防テクPFでマッチング

- 防テクPF活用メリット：防テクPF個別相談会で複数社より情報収集ができ、実証実験により有用性を確認できた。
- スケジュール：令和4年度第5回マッチングセミナー個別相談会に伝達手段多重化ニーズを上げて参加。個別相談会では4社と面談、そのうちの1社と実証実験を実施しシステムの有用性を確認。令和5年度補正予算措置、事業化、運用開始。

システム概要



防災行政無線により放送された緊急情報等(肉声)を自動録音し、録音完了後、登録された電話番号に架電を開始。

架電以外でもテキスト情報の発信もでき、自動録音された情報が自動でテキスト化され、防災情報メール、LINE、町HP、FAX等を選択し一括配信も可能。

防テクPFの貢献

防テクPF個別相談会での情報収集をもとに最適なシステムを導入できた。システムの実証実験で当該サービスの必要性、有効性等を確認し予算確保を円滑に行うことが出来た。高齢者中心に登録が増え、今後の災害対応強化に期待。防テクPFによって町の長年の課題を解決し、災害対応の効率化が進んだ。

